

愛・地球博「地球市民村」/ファイナル

地球市民村人気アーティストが勢揃い！来場者と共に奏でる「地球市民村」ファイナルデー 「地球の夢ファイナルコンサート」ご案内

博覧会協会企画事業遊びと参加ゾーン「地球市民村」では、ファイナルデーとなる9月25日(日)、大地の広場にて、「地球の夢ファイナルコンサート」を下記の通り開催します。

「地球の夢ファイナルコンサート」は、地球市民村の有終を飾るにふさわしく、過去のライブで好評を得た多彩なアーティストをゲストとして招いております。また、『地球の夢』をテーマに、地球市民村参加NPO/NGOのメンバーや来場者にもプログラムに参加していただき、個々がメッセージを発信する“来場者参加型”でお楽しみいただくコンサートです。

ゲストには和太鼓集団「鬼太鼓座」や「えま&慧奏」、「しおのみち」プロデューサー真砂秀朗氏のユニット「真南風」を迎える他、バンブーオーケストラ・ジャパンによる、ワークショップで来場者の方々と制作した竹の楽器を使っての演奏も繰り広げられます。そして、「地球の夢ファイナルコンサート」に引き続いては、「閉村の儀」を行います。ここでは、3・4月の参加団体「社団法人 北海道ウタリ協会釧路支部」が設置したイナウ(アイヌの宗教儀礼に用いる木製の幣帛〔へいはく〕)を奉納する儀式が行われます。なお、コンサート前夜の24日(土)には、4月の「地球の夢トーク&ライブ」に出演した山根麻以さんを招いての前夜祭も執り行われる予定です。

記

スケジュール :

2005年9月24日(土)地球の夢 前夜祭

18:30~20:30 みんなで踊ろう!地球市民村「地球の夢 前夜祭」
【ゲスト】 - 山根麻以 + the Celebrations
- バンブーオーケストラ・ジャパン

2005年9月25日(日)地球の夢ファイナルコンサート

15:00~16:30 バンブーオーケストラ・ジャパン ワークショップ
(NPO/NGOスタッフや来場者の方々とともに行う竹楽器演奏のワークショップ)

16:30~20:00 地球の夢ファイナルコンサート
【ゲスト】 - 和太鼓集団「鬼太鼓座」
- えま&慧奏
- 真南風
- バンブーオーケストラ・ジャパン

20:00~21:00 閉村の儀
【ゲスト】 - 「地球の夢 前夜祭」「地球の夢ファイナルコンサート」全出演アーティスト
- 地球市民村 参加NPO/NGO

会場 : 愛・地球博 長久手会場 遊びと参加ゾーン「地球市民村」大地の広場

< 参考資料 >

ゲストプロフィール

山根麻以 (やまねまい) / アーティスト

1958年、出雲市生まれ。1980～1993年の間にメジャーレーベルから11枚のソロCDを発表。その後フリーランスになり、世界を旅するかたわら、第一線のスタジオミュージシャンとして様々なアーティストのレコーディングに参加。CMやアニメーションのテーマも数多く手がけており、菅野よう子氏の作品を唄った「Cowboy Bebop」のシリーズや、98ヶ国で上映された、故・手塚治虫氏の劇場版Black Jackのテーマなど、海外で高い評価を受けている作品も多い。

1997年からは自社レーベル・New Archaic Soundsから、魂の目覚めを促す音楽「AWAKENING MUSIC」を軸に、人間の本質を謳った作品を作り続けている。2002年のパリ公演(パレ・デ・コングレ)では、手作り楽器と声のハーモニーにデジタルのサンプリングが絡む独特の音世界がマスコミに絶賛される。また、代表曲「ふつうの唄」は、2003年、名古屋公立小学校の卒業式の唄に選ばれ、330人の生徒達によって歌われた。

2004年からは、「日本列島やさしい気持化計画」と銘打ち、全国各地で精力的にコンサート活動を続けている。また、唄うことによって心の内に喜びと幸せを見いだすためのワークショップも開催している。

バンブーオーケストラ・ジャパン

地球市民村のテーマである「竹」を楽器として演奏するバンブーオーケストラ・ジャパン。アジア各地の竹楽器や、大小様々な竹の創作楽器を加えた、世界初の竹楽器による本格的なオーケストラである。巨大な孟宗竹でできたジュゴクの響きは身体を揺さぶり、しなやかな笛の音は心に優しく語りかけ、その音楽は、多彩な音色と体感的な響きを持ち、ジャンルや国境を感じさせないアジアから発信した地球サウンドといえる。

和太鼓集団 鬼太鼓座 (おんでござ)

静岡県富士市、富士山のふもとにて合宿生活をし、国内外にて幅広く活動中。

1969年、亡き田耕(でん・たがやす)代表の構想のもとに集まった若者達により佐渡で結成。1975年、アメリカのボストンマラソン完走後、そのまま舞台に駆け登り、三尺八寸の大太鼓を演奏するという衝撃的なデビューを飾る。「走る」として「音楽」とは一体であり、それは人生のドラマとエネルギーの反映だという鬼太鼓座独自の「走楽論」。その持論を強烈にアピールしたのが、1990年のカーネギーホール公演を皮切りにニューヨークを出発、1993年11月12日の同ホールでの完走帰還記念公演まで、1万4910kmを走破した前人未到の「全米一周完走公演」。

また2004年4月19日、第5期鬼太鼓座の若者達が再びボストンマラソンへ挑戦し、完走後すぐ舞台へ駆け登り、世界平和を願う魂の太鼓を奏でる。同年4月に新アルバム「響天動地」を発売。2005年1月、「日・EU市民交流年」の文化交流の役目を担い、ルクセンブルク、ベルギー、チェコ、ハンガリー、クロアチアにて特別公演を行い各地で大喝采を浴びる。同年4月-6月、「台湾一周マラソンライブツアー」を敢行。台北国家音楽堂での2日間ライブを皮切りに約1ヵ月半をかけて台湾一周1,200kmを走る。その後完走記念ライブを各地にて行うなど勢力的に活動中。

えま&慧奏

えま / うた、二胡、リラ

中国の弓奏楽器・二胡、そしてリラやライアといった豎琴の弾き語りで無国籍に唄う。独自に編み出した奏法から紡ぎだされる二胡の音色は、今までに無いサウンドとして様々なセッションを経て注目を浴びる。“風の楽団 Wind Travelling Band”のメンバーとしてグラストンベリー・フェスティバルに出演。

慧奏(えそう)/ピアノ、パーカッションなど

ピアノをメインに、オーバートーンヴォイス(倍音歌唱法)や循環呼吸など独得な奏法による先住民族のスピリチュアルな伝統楽器をはじめ、石や木から成る自然素材のオリジナル楽器を演奏。ダンス作品「アマミシネリ」の音楽担当、モントルー・ニュージャズ・フェスティバル、グラストンベリー・フェスティバルに出演。国際的な活動を展開しながら、多数のユニットにも参加。自身の活動軸として『あめつちのうた』をキーワードに“えま&慧奏”を結成する。

真南風（マーバイ）

「しおのみち」プロデューサー真砂秀朗氏による3人ユニット。メンバーに、石垣金星、遠藤晶美がいる。

真砂 秀朗（まさご ひであき） / インディアンフルート、パンスリ

旅で出会う風土の中で生まれた楽器に魅了され体験するところから音楽活動が始まった。日本人のアイデンティティー探しをテーマに「しおのみち」「弓の島」等をプロデュース。ネイティブな楽器の音色やリズムをベースにした新しい音作りを追求した。インディアンフルートを中心に、フィールドでの録音をもとに、初のソロアルバム「Chaco Journey」を制作後、色々なミュージシャンとのコラボレーションを重ね「Amazing Blue」「Planet Love」「Colors in the Wind」「真南風」等をリリース。またヴィジュアルアートの分野でも「Earth celebration」のアートワークをはじめ、音楽と同じ感性から発する表現をつづけている。

パンスリ...インドの古典音楽に使用される竹製の横笛。吹口以外に6つの孔がある。

石垣 金星（いしがき きんせい） / 西表島の唄、三味線

西表島祖納部落に生まれ育つ。西表島の人と自然が共存してきた歴史と文化を土台としたシマおこし運動にとりくむ中、風前の灯となっていた染織を島の産業にしようとつれあいの石垣昭子氏と紅露工房をつくり染織の復興に取り組む。いっぽうヤマネコも人も共存していきたいとの願いから発足した完全無農薬栽培米「ヤマネコ印西表安心米」や「西表島エコツーリズム協会」の設立にも奔走。1997年よりアトリエ游全国出前公演に三線演奏で参加。近年は元来兄弟姉妹である台湾、フィリピン、マレーシア、インドネシア、タイ、ラオスの原住民 / 先住民との交流から政治によって断ち切られた絆を結び直しながら21世紀の八重山のあり方、沖縄のあり方を模索している。「西表をほりおこす会」代表。

遠藤 晶美（えんどう まさみ） / ギター、シンセサイザー

ギタリスト、コンポーザー。さまざまなアーティストとのコラボレーションやCDプロデュースを手掛ける。サウンドデザイン、舞台・映像作品のための音楽制作、サウンドセラピーなど、活動は多岐にわたり評価を受けている。『父は空、母は大地』『チベット、天上の王国』『失われた文明』『7 Meditations for Affirmation』『Chaco Journey』『真南風』『しおのみち三の巻』などに参加&プロデュース。